



ご利用者様の重度化・高齢化対応型グループホーム「ワルツ」でのバースディパーティ。

目次 contents

- 01 次なる50年へ。  
～いたる百年の計～  
谷山哲浩理事長
- 02 平成30年度  
事業計画について
- 03 共生型サービスへの  
取り組み
- 04 ピヨピヨおうちえん  
荻窪駅前、開設！  
資格取得は無料、  
移動支援員になろう！  
いたるセンターの  
SNSをご紹介します！

次なる50年へ。～いたる百年の計～

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩

昨年は法人設立50周年を迎え、これまでの歩みを支えていただきました皆様へ感謝いたします。今回は、次なる50年に飛躍するための「いたる百年の計」について、お話しさせていただきます。

杉並区を中心とする都心部にあって、主に障害福祉サービスを提供してきた社会福祉法人いたるセンターは、「自立と共生を求めて個性が響きあう しなやかな社会」を理念に掲げ、地域福祉の確立に努めてきました。これから私たちが迎えるようとする次なる50年は、「揺り籠から墓場まで」の総合的な福祉サービス提供を通じ、地域共生社会の実現を目指していきます。

しかし、人口急減・少子高齢社会という「静かなる有事」が進行する日本の50年後は、現在の人口

の3分の1の四〇〇〇万人が減少し、2.5人に1人が高齢者になると予測されています。いま現在でも年々難しくなっている介護・支援スタッフの確保はさらに難航し、身寄りのない高齢者など、社会的弱者の増加も必然となるでしょう。こうした構造的な問題のなか、地域共生社会を実現するためのキーワードが、「インクルージョン&ダイバーシティ」です。

高齢者や障害者、こども、生活困窮者、ニート、引きこもり、シングルマザーなどの社会的弱者の抱える課題を、地域で包括的に支援していくこと。年齢や性別、国籍、人種、障害、文化、価値観、ライフスタイル、性的自認を超えて、多様な人財を積極的に活かしていくこと。この二つの取り組みを中心に、まずはグループホーム

を核とした地域共生型サービスをスタートさせ、さまざまな社会的弱者を地域でサポートするコミュニティづくりを進めていきます。これは、将来懸念される公的サービス（公助）の縮小に対して、自助・共助によるコミュニティサービスを拡大しようとするもので、これをシステム化した「のれん分け」制度で、国内外に広めていきたいと考えています。さらには、「福祉・介護・医療・教育・農業」という5つの事業分野にこれを広げ、社会的課題を解決する「いたる」ブランドの確立を目指します。

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。  
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。  
年会費 1口5千円（何口でも可）  
郵便振り込み 00110712892  
(間) 330927346 事務局山本まで

「地域住民の福祉のために、法人経営の安定・継続をしつつ、福祉国家の担い手になる」という、「いたる百年の計」のゴールに向かい、法人全体が一丸となって前進を続けてまいります。

今後とも、変わらぬご支援ご協力のもと、よろしくごお願い申し上げます。

# 平成30年度 事業計画について

社会福祉法人いたるセンターにとって、51期目の事業計画。その大きな二つの指針が、「働き方改革の実現」、そして、「サービスの質の向上と工賃アップの確立」です。職員第一主義を掲げ、多様な働き方・多様な人財に対してフレキシブルに伝えていくこと。また、通所施設のご利用者様には、地域生活のなかでの就労を十分理解した上で、サービスの質と工賃の向上の両立を図っていきます。

いたるセンターは、地域において「揺り籠から墓場まで」隙間なく、しっかりと社会福祉サービスを提供するために事業の拡大をはかる。

## I. 働き方改革を実現する

- (1)就業規則、賃金規定を改善する。
- (2)職員の選択を妨げないルール（限定正職員の導入）づくり。
- (3)求める人材の多様化（いたるセンターのダイバーシティ、アジアからの海外技能実習生導入）。

【解説】就業規則や賃金規定を再構築するとともに、多様な働き方を可能にする限定正職員制度を導入します。これは、労働時間、職種、勤務地に対して、職員の事情に応じた限定的な労働条件の下、働くことができる制度です。さらに、我が国の生産年齢の人口の減少、雇用の流動化、労働感の多様化にともない、海外から来た仲間をパートナーとして多く受け入れていきます。

## II. 「サービスの質の向上」と「工賃アップ」を確立

- (1)「久遠チョコ」を核に就労継続支援B型の仕事を確立する。阿佐谷福祉工房、目黒本町福祉工房の2施設で製造し、販売はショップを開設し、工賃の向上を図る。

【解説】当法人の夏目浩次理事が推進する日本財団「夢の貯金箱」事業である「久遠チョコレー



味もデザインも本格的な久遠チョコレート

ト」。障害者を一流のシヨコラティエに、を合言葉にした、全国の福祉事業所を対象にしたチョコレート製造拠点（ブランド）となるべく、準備を進めていきます。

- (2)ALLいたる「自主生産品・就労継続支援B型販売グループ」アメリカ単位を目黒本町福祉工房・就労継続支援B型所属内で立ち上げる。

- ①全事業所の自主生産品の販売（代行又は卸）で工賃を上げる。
- ②キッチンカーの運営責任を持ち稼働を上げ、グリーンカレーの提供で収益アップをはかる。
- ③農福連携で「芽子ニンニク」の6次産業化を実践し、高付加価値で収益をはかる。

【解説】提供するサービスの質の向上と同様、ご利用者様の工賃アップを図ることは、日中活動を行う通所施設の大きな目的です。収益率の高い生産品の絞り込みや、需要に応えられる計画生産体制の整備、販売チャネ

ルの多様化などにチャレンジしていきます。

- (3)パン工房プクプク「就労継続支援A型」は年度売上1億円を達成する。

- ①百貨店の催事売場へ出店する。
- ②SNS等で「食パン」の直販（インスタ、FB、楽天等）。食パン一本での勝負。

【解説】杉並区内の保育園への導入実績をはじめ、国産小麦100%・天然酵母を使用した安全・安心の高品質が認められ、高級スーパーマーケット「ザ・ガーデン」における商品取扱がスタートしました。生産体制をより充実させ、プクプクブランドを確立することにより、一般

就労と就労支援の制度の狭間である「就労継続支援A型」事業において、ご利用者様の自立支援が実現できることを証明していきたいと考えています。

- (4)保育、看護ステーションの立ち上げ

- ①学童保育を立上げる 杉並区・世田谷区・目黒区
- ②保育ママ室、預かり保育所 小規模保育園、3歳以上の幼児を預かる保育園へ挑戦する。
- ③訪問看護ステーションを立上げる。 杉並区・世田谷区

【解説】小規模型事業所内保育事業の立ち上げから3年、今年4月に開設した小規模保育事業が加わりました。これに続き、3歳以上の幼児も対象にした保育事業、小学生をお預かりする

学童保育事業にも参入し切れ目のないサービス提供を行っていきます。また、念願の訪問看護ステーションを整備することにより、地域包括ケアを実現していきます。

- (5)グループホーム事業の拡大

- ①のれん分け制度スタート。のれん分けで小規模GHの経営委託（1〜2カ所のGH）
- ②福祉経営塾の開催
- ③精神障害者GHの設置 杉並区・練馬区
- ④共生型GH（高齢者含む）の運営開始 世田谷区・練馬区。

【解説】重度化・高齢化を見据えた障害者のための生活拠点整備は、きわめてニーズの高い福祉サービスのひとつです。地価の高い都心部での施設整備は、建築コストの増大も相まって負担も大きく、年々人材確保も難しくなっています。しかし、2022年の生産緑地法の解除により、建て貸し方式によるグループホーム整備に追い風が吹いてきました。この機を逃さず、さまざまなグループホーム事業を拡大していきます。

サービスの質の向上、工賃アップという二つの目標を達成していけば、法人総売上18億円達成も視野に入ってきます。ご利用者様が安心して地域で暮らせる環境作り、職員が安心して働ける法人作りこそ、社会福祉法人いたるセンターの使命です。

# 共生型サービスへの取り組み

地域共生社会の実現に向け、一つの拠点で対象者の分け隔てなく福祉サービスを提供する「共生型サービス」が始まろうとしています。

高齢者や障害者だけではなく、こどもや生活困窮者、ニート、引きこもり、シングルマザーなど、多くの社会的弱者と呼ばれる方々のために、何が出来るか。社会福祉法人いたるセンターの考えている取り組みをご紹介します。

## ■これまでの取り組み

社会福祉法人いたるセンターは、2013年、障害者の共同生活援助を担うグループホーム部とサポートウイズ（※）を合併し、地域ケアセンターを発足しました。

当法人のご利用者様の高齢化や重度化が進むなか、地域包括ケアが早急に必要となるだろうと考えためです。

※障害者の居宅介護や重度訪問介護、移動支援および高齢者の居宅介護支援を担当。



地域ケアセンター

## 《地域包括ケアとは》

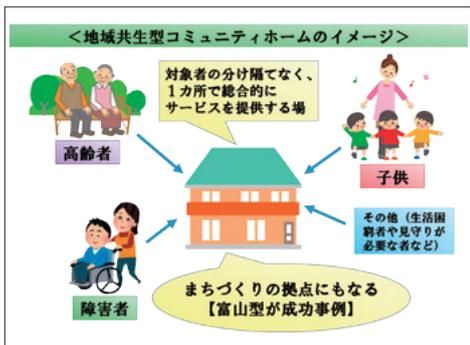
住み慣れた地域で最後まで自分らしく生活してもらうために必要な支援システムです。

### ①包括的な支援体制の必要性

日本では現在、介護と育児に同時に直面するダブルケアや、高齢化する障害者のケア、生活困窮者の子育てなど、複合的な課題を抱える世帯が増加する一方です。こうした複合的な生活課題の解決には、各分野の担当が縦割りで支援するのではなく、高齢者、障害者や子育てなどの全分野を横串でさすような包括的な支援体制の構築が重要です。

### ②地域で支えあう仕組み作りの必要性

支援が必要な世帯を孤立させないためには、地域で支えられる仕組み作りが必要です。町会や自治会をはじめ、地域で活動する様々な団体と共に課題を共有し、今後必要となるであろう取り組みを検討していかねばなりません。



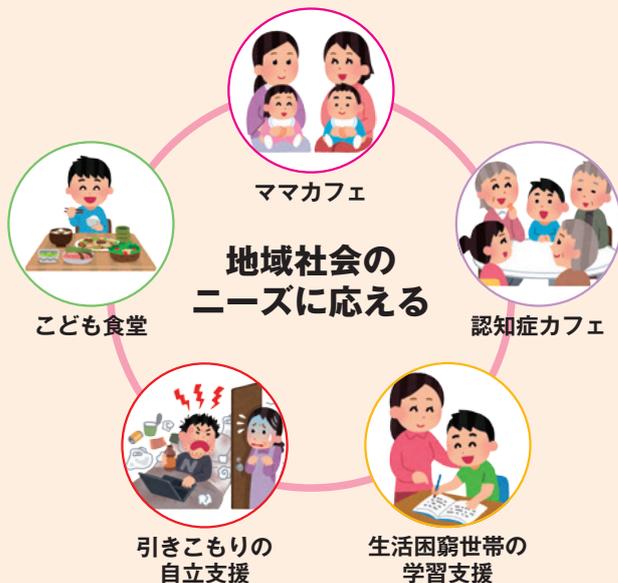
さまざまな共生型サービスを研究しながら、実践への道歩んでいきます。

## ■これから取り組みべき地域課題

いたるセンターの既存施設の特性と地域課題を照らし合わせると、社会貢献事業に本格参入することもできるでしょう。

例えば、障害者の短期入所施設（シヨートステ

## 社会貢献事業への本格参入



## 社会福祉法人の責務

(まず、いたるセンターはどの課題から取り組むか!?)

## 《共生型サービス》

介護保険と障害福祉の両制度に「共生型サービス」が新設され、2018年4月から高齢者と障害者が同一事業所でサービスを受けることができます。

サービス誕生の背景には、従来の制度では高齢になった障害者が馴染みのない別事業所に移らざるをえない課題や、高齢化と人口減によりサービス提供側の人材確保が難しい社会事情があります。



ピックアップいたる

法人初の小規模型保育事業が、平成30年4月1日、荻窪駅前にスタートします!

# ピョピョおうちえん荻窪駅前、開設!

本施設は、平成28年4月に当法人が開設した事業所内保育施設に続く、2園目の保育園となります。私どもの事業所内保育施設の運営によって培った保育園運営経験を活かし、安心・安全にお子様をお預かりし、地域の小規模保育園として、地域の子育て支援と杉並区における待機児童の解消に貢献したい、と考えています。

荻窪駅徒歩3分という好立地を活かし、1人でも多くの待機児童の解消を目指し、杉並区の要綱で定められた基準を満たす十分なスペースを確保した上で、定員19名+3名の弾力化を含む、22人の受け入れが可能な小規模保育園を整備しました。また、保育士の休憩スペースや更衣室などを確保し、小規模保育園でありながら、ハード面でも職員が働きやすい環境整備を目指しています。安全管理及び危機管理については、社会福祉事業に50年以上従事してきた当法人の強みとして、研修、日々の保育、保護者との連携に関しても責任のある取り組みを行なっていきます。



地域交流事業として保育施設の地域開放を実施します。通園児童の少ない土曜日等にマタニティの方を招待し、手遊びや絵本の読み聞かせ等を体験していただきます。

■マタニティ見学会：平成30年5月を予定

お問い合わせは、ピョピョおうちえん 大上まで 03-6913-5617

ピックアップいたる

映画やカラオケ、遊園地、お花見などなど。障害者の方と一緒に楽しみませんか!



# 資格取得は無料、移動支援員になろう!



身近な地域で社会貢献したいという方が、非常に多くなってきました。しかし、何から始めて良いかわからない、という言葉もよくお聞きします。そこでお薦めしたいのが、障害者の外出をサポートする「移動支援」です。障害のある方は、移動の困難さゆえに外出を控えることになりがちです。そのために、社会生活上の必要な活動が制限されてしまうこともしばしばです。移動支援では、冠婚葬祭や投票などの社会生活を送る上で欠かすことのできない外出や文化的活動、イベントへの参加や観劇、コンサートなど余暇活動を通じた社会参加のための外出支援がガイドヘルパーによって行われます。

当法人の地域ケアセンターには、この移動支援を行う「サポートウイズ」という事業所があり、多くのガイドヘルパーの方々が登録しています。サポートウイズでは、ハイキングやお花見などのイベントを小グループで行う「グループ支援」も予定していますので、マンツーマンでの支援に自信がない方もでもご参加いただけます。また、移動支援従事者研修(ガイドヘルパー研修)も行っており、サポートウイズへのガイドヘルパー登録をしていただけの方は、無料で研修を受講できます。初めは、ボランティアでという方もご参加可能ですので、あなたの善意をカタチに変えてみませんか?

■移動支援従事者研修(ガイドヘルパー研修)

開催日程 平成30年10月2日~13日

お問い合わせは、エコー・ド・イタル 石川まで 03-5335-7701

■ボランティア募集

お問い合わせは、サポートウイズ 山崎まで 03-3220-4510

## いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩  
社会福祉法人いたるセンター  
〒167-0032  
東京都杉並区天沼1-15-18  
TEL: 03-3392-7346  
FAX: 03-3391-8039  
Eメール: info@itarucenter.com  
HP: http://www.itarucenter.com/  
発行日/平成30年4月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。



ITARU CENTER



## いたるセンターのSNSをご紹介します!

### 法人ホームページ

<https://www.itarucenter.com/>

法人概要・施設紹介・情報公開・採用情報など。合同就職説明会や法人見学ツアーなどの情報も網羅しています。



### Instagram (インスタグラム)

<https://www.instagram.com/itarucenter/>

まだスタートしたばかりですが、各施設も参加して、写真情報をお伝えしていきます。フォローや「いいね!」をお願いいたします。



### Facebook (フェイスブック)

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100004664112603>

今年度は、各施設も参加して、さまざまな情報発信を行っています。友達申請や「いいね!」をお願いいたします。

